

# 私の仕事 この一年

## 九州大学附属図書館

安田 さくら

2021年4月に九州大学附属図書館に採用され、1年が経とうとしています。本稿では、私が担当している仕事について、仕事を通して思ったことについてご報告したいと思います。

私は、学術サポート課 学習・研究支援係という部署に所属しています。名前の通り、学習や研究を様々な形で支援する部署です。主な業務として、講習会の開催と、Cuter と呼ばれる図書館 TA の管理を担当しています。

講習会については、企画から広報、講師まで、他館の担当係と協力しながら行います。講習会の内容は、OPAC を使った文献の探し方や、CiNii や PubMed などの外部データベースの使い方、論文 pdf を管理するソフトウェアの使い方など多岐に渡ります。図書館が企画する講習会以外にも、学部や研究室などから依頼を受けて講習会を開くこともあります。

私が5月に初めて担当した講習会は、共創学部という学部の1年生に、図書館の使い方や図書館が提供するデータベースについて説明する講習会でした。4月に就職して1ヶ月で、約100人を相手に90分間の講習会を1人で担当するというのは大変なプレッシャーでしたが、これをやり遂げた経験がその後の自信につながりました。

他にもいくつか講習会を担当しましたが、受講者アンケートの結果が振るわない事もありました。そこで、先輩方が講師をした講習会を何度も見て研究し、ただテクニックを羅列するだけではダメだという事に気がきました。そのテクニックは何のためにあるのかという目的を意識して話すことで、アンケートに表れる受講者の満足度は変わりました。インターネットや本でいくらでも情報が得られる時代、ただ上手に説明するだけでは受講者に響かないところが講習会業務の難しいところだと思います。しかし、努力すればするだけ受講者からの反応が変わるという点に大きなやりがいを感じています。

もう1つの主な業務、Cuter と呼ばれる図書館 TA の活動は、令和3年度国立大学図書館協会賞も受賞した、特色のある取り組みです。20名ほどの大学院生たちが、図書館内に設置されたデスクでの学習相談の対応、LibGuides を用いた学習ガイドの作成、イベントの開催などを行っています。研究者志望の学生も多く、研究熱心かつ、研究を外に発信しようとする意欲もある Cuter たちには頭の下がる思いです。

2021年度は、Cuter の得意分野を活かしたイベントを積極的に開催しました。統計分析ソフトの「R」を研究で使用している Cuter が企画した「はじめてのR」や、高校時代に放送コンテストで入賞した経験を持つ Cuter による「よりよく話したい人のために」は、複数回開催されるほどの人気企画になりました。Cuter もさることながら、Cuter の強みを引き出し、彼らのアイデアを形にしていく先輩方の仕事があってこそだと思います。アイデアを企画として組み立てるのは苦手としている分野なので、見習っていきたくと思っています。

私は、教育や学問に近い場所に居たい、研究を支援する仕事がしたいと思って大学図書館の職員を志望しました。その希望が叶う場所で働けていますが、目の前の仕事をこなすことに精一杯で、自分の仕事が教員や学生の手助けとなっている確かな実感はありません。しかし、自分が担当した講習会で「とても為になった」「分かりやすかった」といった感想をもらう時、Cuter と一緒に立ちあげた企画にたくさんの参加者が来た時、少しは役に立てているのかなと思います。自分の至らなさに歯がゆい思いをすることも多いですが、一歩ずつ着実に成長していけるよう励みたいと思います。